

文化庁 日本の技体験フェア  
ふれてみよう！ 文化財を守り続けてきた匠の技 参加記

たたら・伝統文化推進課長 黒滝哲哉

滅び行く日本の伝統的技術を保存し、後世へと伝承するため、昭和五十年（一九七五）に文化財保護法の一部改正がなされ、「選定保存技術」（法第一四七条）という制度がスタートしました。現在ではこの技術に選定されている団体は三十以上あります。協会事業である「日刀保たたら」も昭和五十二年（一九七七）にこの選定を受けており、

この時には同時に岡倉天心の流れを汲む美術院（京都）も選ばれたことは記しておきたいと思います。

標記のフェアは、選定保存技術団体が年に一度、一会場に集合し、各団体の事業や団体の紹介などをパネルや実演によって行う企画です。

本年は九月十二日と十三日、出雲大社横にあるイベント施設「大社文化プ

レイス うらら館」において行われ、家族連れを中心に二日間で三千人以上の来場者がありました。

日刀保たたらブースでは、山陰地方におけるたたら隆盛の歴史をパネル解説し、そして実際の操業写真をふんだんに紹介しました。また、玉鋼や砂鉄あるいはたたらで使用する道具なども実物展示しています。

講演では、文化庁鑑査官齋藤孝正氏が基調報告を行い、出雲での開催ということから日刀保たたら木原明村下、および堀尾薫村下代行の対談も行われ、効果的な企画となったようです。他団体では、実演を中心に盛況であ



り、金箔の制作工程や座ぐり製糸の作業、さらには出雲神楽の上演なども行われ、楽しみながら多くを学べる機会となりました。この企画は、平成十五年（二〇〇三）より毎年各地を巡回して行われており、来年もいずれかの場所で開催されます。日本の技に触れることのできる良い機会ですので、興味のある方は、是非足を運んでいただければと思います。

最後に、日本文化とその技術の崇高さを再確認する機会を与えていただいた文化庁、そして制作会社のNHKプロモーションの方々へ御礼を申し上げます。